

主催:日本医学ジャーナリスト協会 西日本支部

2025年度 新聞週間公開シンポジウム

離島医療の現況と課題

～島で診るか、本土に運ぶか～

日時

10月18日(土)

13時～15時30分(開場:12時30分)

開催
方法

オンライン開催

発信
会場

九州大学西新プラザ
福岡市早良区西新2丁目16-23

島国・日本……。本州、北海道、四国、九州、沖縄本島を囲んで14,120の離島があり、そのうち、本土から隔絶された大小約300島で56万人が暮らす。産科をはじめ、医師がいない島がある。ひとたび嵐となれば、孤立する。「島で診るか、本土に運ぶか」。迷う夜がある。

それらを補うように、医療用ヘリを飛ばす人、島の出産、子育てと医療を支え合う母親たち、離島の中の離島診療に奮闘する医師、本土・東京で、島の医療に向き合い支え続ける医師がいる。離島医療の現況と課題を見つめ、今後を展望する。

《主催者挨拶》**藤野博史**(日本医学ジャーナリスト協会理事・西日本支部長)

《司会》**中村 弥和**(日本医学ジャーナリスト協会西日本支部常任幹事)

九州大学
西新プラザ
交通案内



第1部

講演 (80分) 各20分



島の医療を支え続けること

小山 茂

東京都立広尾病院内視鏡センター部長
島嶼コミュニティ学会共同代表理事
島しょ医療研究会世話人



離島の中の『離島診療』

玉榮 剛

中部徳洲会病院副院長(沖縄県)
前沖永良部徳洲会病院院長(鹿児島県・沖永良部島)



島の出産、子育てと医療

内野 正世

NPO法人よろん出産子育て応援隊あんなあ〜ず代表
(鹿児島県・与論島)



医療用ヘリ・航空機を飛ばせ ～救える命を救うため～

塚本 裕樹

NPO法人メッシュサポート理事長(沖縄県)

第2部

パネル ディスカッション (60分)

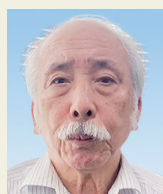
離島医療の現在

●コーディネーター



青木 さぎ里

自治医科大学看護学部講師
NPO法人へき地保健師協会
理事長(栃木県下野市)



松本 博

元共同通信文化部次長
西日本支部常任幹事
(福岡市)

●パネリスト

小山 茂(東京都)

玉榮 剛(沖縄県)

内野 正世(鹿児島県・与論島)

塚本 裕樹(沖縄県)



河田 真智子

島の医療ジャーナリスト
前南日本新聞客員論説委員
西日本支部会員(東京都)

【募集定員】オンライン定員100人 【参加費】会員1,000円、非会員2,000円

応募方法は
①②のいずれか

①右記QRコード、(peatix・申し込みフォーム) <https://ritouiryou-sympo.peatix.com>
または、②名前・所属を書き、下記E-mailからお申し込み下さい。
オンラインURLを開催前日までに連絡します(Zoomで配信)

peatix
申し込み
フォーム



ホームページ

お問い合わせ
お申し込みは

特定非営利活動法人

日本医学ジャーナリスト協会 西日本支部

〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-2-6-303

E-mail ▶ **Mejawest@mejaw.jp**

Web ▶ <http://mejaw.jp>

電話 ▶ 090-2082-9824 (藤野支部長)